

学校だより

希望 共生 個性



かないずみ

令和6年3月18日 NO.10 佐渡市立金泉小学校

十人十色の6年生

校長 矢嶋 義宏

今週で今年度が終わります。6年生は、6年間通った金泉小学校ともお別れです。卒業文集に、私は次のようにメッセージを書きました。

「十人十色」のみなさんへ

「とても個性的な6年生だなぁ。」と思ったのが、みなさんの第一印象です。まさに、「十人十色」のみなさんです。運動会でも、修学旅行でも、親善陸上大会でも、親善音楽会でも、学習発表会でも、そして、日々の授業、日々の学校生活において、十人の「個性」が輝いていました。

「算数」と「理科」の授業の際に、みなさんから「もっと、仲間同士で教え合いながら、授業を進めていきたい」という要望がありました。私は「なるほど」と思いました。人それぞれに分かるスピードや分かり方が違います。学級全体で同じペースで、同じ方法で授業を進めるのではなく、「仲間同士で教え合う」ことで、自分たちがそれぞれに適した学習にしようとしているのです。みなさんの中に「それぞれが尊重されるべき唯一の存在」であるということがベースとしてあるのですね。だから授業の中でも、「仲間同士」を大切にしようとしたのですね。とても素晴らしいと思ったし、そんなふうに考えるみなさんをすごく嬉しく思いました。

そして、そんな仲間と一緒に、小学校生活の中で、長い間、切磋琢磨したり、ふざけ合ったり、時にはけんかをしたりしながら過ごしてきたからこそ、今のみなさんが「個性的」であり続けているのだと納得しました。

「個性的である」ということは、とても大切なことです。「自分らしさを発揮している」と言い換えることができると思うからです。そして、是非とも「自分らしく生きる」ということを、これからの人生でも貫いてほしいと思います。だれかの借り物の人生でなく、自分らしい自分自身の人生にするのです。

きっと、これから生きていく中で、何度も選択を迫られることがあるでしょう。その時、自分の意思で選択してほしい。そして、そのことに誇りをもってほしい。そうすれば、どんな選択をしようとも、自分にとって確かな価値あるものをつかむことができると思います。

かけがえのない自分の、かけがえのない人生を願っています。

この学校だよりを書いている今、体育館で6年生が卒業式の中で行う「よろこびの言葉」を練習している声が聞こえてきました。その言葉、歌声に、金泉小を去ることへの寂しさと中学校進学に向けての希望を感じます。

10人全員が立派に成長しました。3月22日（金）の卒業式には、胸を張って金泉小を巣立って行ってほしいです。

